

／巻／頭／言／

▶ 豊田高専版スタートアップ教育が目指すもの

豊田工業高等専門学校長 やまた ようじ 山田 陽滋

スタートアップの励行は、イノベーション促進とその社会的受容性を高める上で重要な政策課題であるとして、2022年6月から政策支援が始まりました。これを受けて、『日本の経済成長を促し、社会課題解決に貢献するため、「高い技術力」「社会貢献へのモチベーション」「自由な発想力」および「主体的にチャレンジする力」をもっている高専生は、起業に適した人材であるといえる。』として、国立高専機構本部も2023年4月のキックオフで全国の高専を対象として「スタートアップ教育環境整備事業」を通して、当該教育を推進してきています。これを受けて、本校でも2023年4月からスタートアップ教育を始めました。

豊田高専版スタートアップ教育の具体的な内容については、本稿記事「スタートアップ教育始まる」に概述しています。豊田高専生らしく、SDGsの理念に依拠して社会課題に挑んでもらうことを念頭に、諸君がSmart Mechatronics (知能メカトロニクス) 分野ならびにDigital Fabrication (デジタルデザイン加工) 分野それぞれにおける専門性の高いスキルアップを目指しつつ、【STEP1】～【STEP3】のクリアを目指してもらおう教育プログラム内容として展開していく所存です。

ところで、スタートアップ教育をカリキュラムの一部に組み込んでいく際に、学生諸君が現状すでに授業の中で体験している、PBL学習 (Problem-Based Learning、課題解決型学習と呼ぶもので、学生諸君が自ら課題を見つけ、その解決策を生み出していく能力を養う学習) とは何が異なるのでしょうか？ スタートアップ教育の特徴のひとつに、グループワークがあります。これは、グループの中で互いにアイデアを出し合って、より良いアイデアに結び付けるための手段ですが、PBL学習をグループワークの中で行えば、スタートアップ教育と同じになるのでしょうか？ 答えは、NOです。なぜなら、スタートアップ教育には、新しいアイデアに「社会的価値をもつこと」が条件としてさらに上乗せされるからです。これには、アイデアの価値を見積もるための知識、アイデアを現実解として社会実装するための発案者の態度や彼らによる社会での価値検証プロセスの体験が必要になります。

スタートアップ教育は、いまや一部ながら小学校から始められているという実態をご存知でしょうか。高校では、スタートアップ教育が始まって10年が経過しようとしているところが少なからずあります。これらの動向に鑑みると、本校の今年度のスタートアップ教育始動は時期的にはむしろ遅いぐらいといえます。それだけに、教職員や学生諸君とよく議論しながら、ユニークで的を射た教育プログラム、アイデアを社会的価値に結び付ける能力、を育成する教育に成長させていきたいと考えています。例を挙げれば、課外活動時間帯を利用したスタートアップサークルを開設し、これに所属する学生諸君の学外でのスタートアップイベント等への参加を促しています。すでに、去る7月に行われたスタートアップウィークエンド豊田には本校から7名の学生が参加し、1位～3位のグループに本校の学生が名を連ねていました。また、現在のインキュベーション室は、やがて起業家工房と名を変え、外部から同窓生はもとより、起業家・投資家・企業の方々自由に入出できるような空間にしたいと考えています。これらはいずれも、アイデアに社会的価値を与えるためには、社会との交流が欠かせないというポリシーに根差しており、スタートアップ教育環境の整備は着実に進められてきているといえます。



Y A M A D A
Y O U J I